

## (19-I) サービス業（情報サービス業）

17/16 18/17 ◎ 伸び率10%以上 ● 伸び率0～▲10%  
：天気図マーク； ● ◎ ○ 伸び率0～10% ● 伸び率▲10%以下

### 1. 企業経営動向

#### (1) 需要

##### ①平成16年の実績

特定サービス産業実態調査（7, 110事業所）によれば、平成16年度の情報サービス産業の売上は14兆5, 271億円で前年比2. 5%の増加となった。

##### ②最近の状況

特定サービス産業動態統計調査（約2, 800事業所）によると、情報サービス産業の売上はこの一年で回復基調にある。ここ半年ほどを見ても、平成17年12月に前年同月比▲0. 9%を記録した以外は、一貫して前年同月の値を上回っている。DI値においても、平成17年4～6月期の売上高予測は、22. 0と大きくプラスである。

##### ③今後の見通し

景気の回復を受け、金融業、製造業を中心にIT投資そのもののニーズは堅調に推移しており、それを反映して受注ソフトウェア、ソフトウェアプロダクト共に堅調な推移が期待される。

#### (2) 生産・設備稼働

情報サービス産業は、売上に占める人件費比率が高く、一般的に設備投資率は低い産業である。

#### (3) 企業収益

製造業・金融業を中心にIT投資が進んでおり、業績は回復しつつある。他方、主力のシステムインテグレーション（SI）事業で、①「競争激化による価格低下」、②「不採算案件の発生」、③「技術者の不足」等の要因に引き続き苦しむ企業も多く、好調企業と不調企業の二極分化が進みつつある。

### 2. 設備投資動向（17年度見込み、18年度計画）

#### (1) これまでの設備投資の推移

2～3年単位でプラス、マイナスが変化する傾向にある。平成16年度の設備投資

実績は前年度比－４２．０％と大幅に減少した。１７年度は前年度比－１．１％と減少に歯止めがかかる見込みである。

#### (2) 平成１８年度の設備投資計画

平成１８年度の設備投資計画は３８．７％と増加に転じ、投資回復の兆しが見えてきた。

### ３．長期資金調達・運用動向

#### (1) 長期資金運用動向

平成１７年度は平成１６年度に比べ、設備投資資金、投融資額共に増加し、短期資金への振替も増加する見込みである。

平成１８年度計画は平成１７年度に比べ、引き続き、設備投資資金、投融資額、短期資金への振替が増加する計画になっている。

#### (2) 長期資金調達動向

平成１７年度は株式による調達が減少し、借入金による調達が増加した。

平成１８年度計画においても、株式による調達は減少し、借入金による調達が増加する計画となっている。

他方、資金調達全体における内部資金の構成比は３ヶ年を通じて大きく、内部資金により賄う傾向にあると言える。

(グラフ１：設備投資の前年度比の推移)

